

あのときはどうも

いぜん せわ がいこくじんりゅうがくせい ひさ さいかい
以前お世話をした外国人留学生に、久しぶりに再会することがあるが、
ほとんどの場合、彼らは世話になった礼を言わない。礼を言われることを
きたい
期待するほうがおかしいのかもしれないが、なんだかさびしい。日本人は何か
せわ ちよくご れい の ご あ せんじつ
世話になった直後にお礼のことばを述べ、その後も会うたびに、「先日はあ
りがとうございました」「あのときはどうも」「いつぞやはお世話になりました
た」などと繰り返して言う。これが普通だと思っている日本人の習慣から
すくと、そのとき一回かぎりのお礼だけではもの足りなさを感じるのも無理
はない。

いっばんてき にほんいがい おお くに れい いっかい す
一般的に、日本以外の多くの国では、お礼のことばは一回きりで済ます
ばあい おお かんじん かれ
場合が多いようだ。ただ、ここで肝心なことは、彼らはけっして恩を忘れて
いるわけではないということである。それは、ひとたびこちらからお願ねがいご
とをすきょうしゆくると 恐縮せいしてしまいっばいつうほど精一杯せい尽くしてくせいれることでもわかる。

にほん ぎりしゃかい い にほん でんとうぶんか ぎりにんじょう
日本は義理社会だと言われる。日本の伝統文化をはぐくんできた義理人情
たいせつ おも かたち
は大切にしなければならぬと思う。しかし、それが形だけのものになっ
てはならぬと思う。

おく もの おも さき かえ かんが ころ
贈り物も、もらってありがたく思うより先にお返しのことを考える。心
かんしゃ きも つた れい い わす
から感謝の気持ちを伝えるはずのお礼のことばも、言い忘れては失礼になる

という気持ちのほうきもが強くはたつよらき、二度も三度もふたど みたび繰り返す。これらは、お礼れいをしたり、お礼れいを言いったりすることが形かたちだけのものになってしまった悪いわる例だ。

贈り物おく ものをもらったとき、「ありがとう」の一回いっかいきりのことばだけで済すますわけにはいかないだろうが、まるで物々交換ぶつぶつこうかんのようなお礼れいのやりとりだけではしたくないものだ。

関正昭 南日本新聞 1993年11月16日夕刊より